

福岡市総合計画審議会

第1回 生活の質部会

会議録

日時 平成24年7月10日(火) 午後3時00分

場所 天神ビル11階 11会議室

出席者（五十音順、敬称略）

飯盛 利康

宇治野みさゑ

小川 全夫

熊谷 知子

竹下 輝和

中村 健士

福嶋 明子

吉田まりえ

池 勝

江頭 啓介

落石 俊則

酒匂 純子

辰巳 浩

中村 有里

松田 瑞恵

岩永 真一

太田 英二

尾花 康広

定村 俊満

中原 義隆

中山 郁美

森田 昌嗣

福岡市総合計画審議会

第1回 生活の質部会

〔平成24年7月10日（火）〕

開 会

1 開会

○事務局（光山） それでは、定刻を過ぎましたので、ただいまから福岡市総合計画審議会生活の質の部会の第1回目の会合を開会させていただきます。

私は、福岡市総務企画局企画調整部長の光山と申します。よろしくお願ひいたします。

委員の皆様には、大変お忙しい中、本会合にお集まりいただきましてほんとうにありがとうございます。本日より部会ということで、実質的な審議に入っていただくという形になります。本日は最初の部会でございますので、部会長選出までの間、私が進行役を務めさせていただきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

まず、審議に先立ちまして、報道関係の皆様及び傍聴される皆様にお願ひがございます。会議の円滑な進行のため、カメラ等の撮影、取材は委員の皆様の自由な発言、議論の妨げにならないよう十分ご配慮をお願ひいたします。また、傍聴者の皆様には注意事項をお渡ししておりますが、傍聴席からの発言や拍手等はできません。注意事項が守れない場合は退席していただきますので、どうぞよろしくご協力をお願ひいたします。

それでは、まず、配付資料の確認をさせていただきたいと思ひます。

本日の配付資料、1枚目の会議次第と、下のほうに配付資料の一覧を記載させていただいております。

次第をめぐっていただきまして資料1が、今回の生活の質部会の委員の名簿でございます。

それから、資料2が「今後の審議スケジュール」となっております。

それから、資料3でございます。こちらにつきましては、「『第8次基本計画のふりかえり』のグラフ出典等」ということで、さきの総会の資料7を説明している中で、安浦会長からデータの出典や母数を示すようにというご意見をいただきましたので、今回、お示しさせていただいているものでございます。

それから、資料4でございます。「外部から見た福岡の評価」ということでございます。こちらもさきの総会で後藤太一委員から外部の方が福岡をどう見ているのかという資料があればということでもございましたので、今回、資料4ということで二つでございます。一つ目が『福岡市におけるアジア政策の過去・現在・未来 第2巻』ということでも2010年の福岡アジア都市研究所の出典でございます、韓国や中国の専門家から見た「福岡市アジア政策への提言」という形でご意見を伺ったものでございます。

2番目として『福岡市と九州各自治体との交流・連携に関する調査』ということで、こちら福岡アジア都市研究所の研究の出典でございます。九州内の124の自治体へのアンケート調査といたしまして、福岡市が九州・沖縄の中で担うべき役割や機能について、それから活用したいと考えている資源などについて調査した結果を抜粋しているものでございますので、後ほどご参照いただければと思います。

もう一つ、最後に、先日の総会の会議録を配付させていただいていると思います。こちらにつきましては、内容をご確認いただきまして、修正点がございましたら7月17日までに事務局までご連絡をいただきたいと思っております。その後ホームページ等で公表させていただく予定でおりますので、よろしく願いいたします。

それでは、議事に入りますが、まず、委員のご紹介につきましては、先日の総会におきましてすべての委員の方のご紹介をさせていただきましたので、本日は審議の時間を確保したいという観点もございまして割愛させていただきます。

2 部会長、副部会長選出

○事務局（光山） それでは、議事に入りたいと考えております。初めに、部会長と副部会長をご選任いただきたいと考えております。福岡市総合計画審議会規則第10条第2項の規定によりまして、部会長及び副部会長は委員の中から互選することになっております。もしよろしければ事務局からご提案させていただきたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○事務局（光山） ありがとうございます。

それでは、事務局の案といたしましては、部会長は、九州大学大学院人間環境学研究院教授の竹下委員に、副部会長はNPO法人FUKUOKAデザインリーグ副理事長の定村委員にお願いしてはどうかと存じますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○事務局（光山） ありがとうございます。

それでは、生活の質部会の部会長に竹下委員、副部会長は定村委員にご就任いただきたいと存じます。竹下部会長と定村副部会長には、正面の席にお移りいただきたいと思っております。よろしく願いします。

〔部会長、副部会長、正副部会長席へ移動〕

3 部会長、副部会長あいさつ

○事務局（光山） それでは、竹下部会長、定村副部会長からごあいさつをお願いいたします。

○竹下部会長 座ってあいさつをさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

生活の質部会ということで、「生活部会」ではなくて「質」がついているところが一つ大きなかなめだろうと考えております。元気な福岡市もいいんですが、居心地がよくて住み心地がよくて、住んでいて楽しいまち福岡ということがあるのではないかと思います。

私は、人間環境の中で建築をやっているんですけども、建築でも生活空間論の立場からやっていますので、こういう機会を与えていただいたのではないかと思います。

随分前の話になりますが、最初の福岡市の総合計画というのは、私が聞くとところによると、一人の先生が一から十まで書かれたということだそうです。今回はパブコメ型といますか、市役所のほうで頑張ってくださいという部会で議論を詰めて、そしてパブコメをして、それで市民に周知するという非常に大きな流れを組んでいるのではないかと思います。皆さん方のご意見が部会の中に反映されていい成案ができることを望んでおります。

私は進行役で、定村さんはどちらかというまとめ役で、混乱したときは小川副会長に頼もうと考えておりますので、よろしくお願い致します。

できるだけ多くの方からできるだけ多くの意見をいただきたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

それでは、以後、私のほうで進行させていただきますが、次にごあいさつを。

○定村副部会長 NPO、FUKUOKAデザインリーグの副理事長をやっています定村と申します。

東北の大震災以降、価値観がいろいろ変わったと言われております。そのうちの大きな柱は多分、これからは経済だけではなくて、ほんとうに地べたに足をつけた別の安定した価値観が要するというのは、どこかでみんな感じていると思います。したがって、この部会は、まだぼんやりしているその新たな価値観をぜひ明確にして、それを福岡市の長期のビジョンに据えられるといいなと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

○竹下部会長 どうもありがとうございました。

小川副会長、何か一言いただけますか。

○小川副会長 何回も申すことなんですけれども、とにかくこれから先の20年後、30年後を考えた場合は、これからの10年が最後の勝負をかけるときということで、皆さんと一

緒にご意見を戦わせていきたいなと思っています。

○竹下部会長 どうもありがとうございました。

○事務局（光山） ありがとうございます。それでは、ここからは竹下部会長に進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

4 審議（基本構想、基本計画（総論））

○竹下部会長 今日はお手元に議事次第が届いているかと思えますけれども、早速4番目の審議に参りたいと思います。

まず、具体的な審議の中身でございますが、この部会の運営スケジュールにつきまして再度ご説明をいただきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（藤本） 企画課長の藤本でございます。よろしくお願いいたします。

「資料2」と書いてある今後の審議スケジュールを再度確認だけさせていただきたいと思えます。資料2をごらんください。

第1回総会を7月3日に開催させていただいたところでございます。そちらでは、基本構想、基本計画の素案について一たん皆様に全部を説明させていただいたところです。本日が7月10日ということで部会の1回目で、基本構想及び基本計画の総論に当たる部分を中心にご議論いただきたいと思えます。そしてその下の部会の2回目ということで、来週7月18日に基本計画の各論、個別のそれぞれについての目標等についての審議をしていただく。1回目と2回目で一たん素案を全部最後までご議論いただくということでございます。そこを踏まえまして、成長部会のほうでも一たん最後まで議論をいただきますので、7月31日に総合調整委員会ということで、会長、副会長、両方の部会の部会長、副部会長とで、少し両方の部会での意見についてのすり合わせをいたしまして、両方の部会での意見を反映させた形で素案の修正案というものを、8月1日に予定しております部会の③で出させていただきます。部会の3回目と4回目でその修正案についてのご審議をいただきまして、8月30日に再度両部会間での調整を経まして、8月31日の総会でパブコメ案として決定いただくことを考えております。その後、パブリックコメントをいたしました後、パブリックコメントの意見を反映した形のものについて部会の5回目と6回目ご審議いただきまして、11月19日に最終的な総会で成案を決めていただくというスケジュールで考えているところです。

説明は以上です。

○竹下部会長 ありがとうございます。

ただいま説明のありましたスケジュールにつきまして、何かご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

〔「なし」の声あり〕

○竹下部会長 それでは、早速審議に入りたいと思います。

資料9が皆さんのお手元にあるかと思います。総合計画の素案に従って審議を進めてまいります。1ページ、2ページが基本構想になっておりまして、今日はここの議論をぜひお願いしたいと思います。それから、3ページから19ページまでが基本計画の総論のところ、これを第2ステージでお願いしたいと思っています。それから、最後の20ページから22ページの戦略のところは第3ステージで議論していただきたいと思っています。限られた時間の中での議論になりますので、申しわけありませんが1ステージ20分ということでもまず1時間走ってみたいと思います。それから、当然、いろいろなところで全体のことがあろうかと思いますが、残り20分ぐらいを全体の意見交換という形にさせていただきたいと思っています。

それでは、最初に戻りまして、1ページ、2ページのところの基本構想のところ、特に都市像等々のところにつきましてご意見等ございましたらいただきたいと思っています。どなたかいかがでしょうか。それでは、小川副会長から切り出しをお願いします。

○小川副会長 昨日、成長部会のほうでも会が持たれたところで、ここの最初のところについての議論もあったと思うんですね。それを踏まえたほうがいいのではないかと思いますので。

○竹下部会長 わかりました。それでは、事務局のほうでちょっとコメントいただけますか。

○事務局（藤本） 昨日、成長のほうの部会がございまして、まだ実際の議論をきちんとはまとめていないところなんです、都市像のところにつきましては、今ご提案している、現在の都市像を踏まえた四つの都市像については、一つにしたほうがいいのではないかと、もう1個つけ足していいのかというようなご意見が出ました。そして、成長の部会ということもありまして、明確な一つのコンセプトを打ち出したほうがいいのではないかと、今の四つは生かして上に一つ、まとめたコンセプトとしての文章を入れたらどうかとか、あるいは、一つを多面的に見ているんだということがわかればそれでいいのではないかと、そういったご意見が少し出たところです。総体としては、ある程度一つコンセプトのようなものがあって、その下に三つぐらいにする、四つだと多

くないだろうかというご意見が多かったかなと思います。

結論ということではなくて、そういったご意見、あと、こちらでのご意見も踏まえて総合調整委員会のほうで部会長、副部会長中心に調整いただくというようなお話になっているところですよ。

○竹下部会長 いかがでしょうか。

感想から言うと、30年近く前に、前身である総合計画の中の都市像のキーワードとして「アジア」を入れたということは、福岡市にとって画期的なことだったと思うんですね。あの当時、まだ我々は欧米中心の見方をしておりまして、アジアという言葉がこの総合計画のキーワードの中の一番大切なところに使ったのは福岡が初めてだったと思います。そういう意味で、この都市像というのは非常に大きな役目を果たすのではないかなと思いますが、どうでしょう、だれか皮切りのご意見ございませんか。お願いします。お名前をいただけるとありがたいです。

○委員 前回、総会のときにもお話しさせていただいたんですが、言われたとおり、福岡市とは何ぞやというところがあって、それに対して四つの都市像だと思うんですよ。前回、市長があれだけ力強くお話をされて、人と環境と都市の調和のとれたアジアのリーダー都市というところでの説明を受けたんで、そこに向かって皆さんでいろいろな形の審議をしましょうということになるのかなと。これが20年後、30年後にこの言葉がいいのかなと言われると、そこに問題はあると思います。しかし、まず一つ、福岡市とは何ぞやという大きなテーマがあって、それに向かって生活、それから都市の成長等を考えないと、この四つの柱になっているところは、それなりに当たりさわりはないんですが、では、最終的に何を求めるのかということでは非常に弱い気がします。市長の言われた一言がすべてだとは思いませんが、我がまち、我が福岡市はこうであるという大きく一つ立てるべきだと思いますがいかがでしょうか。

○竹下部会長 どうでしょうか。

○事務局（藤本） 今の市長の言っているアジアのリーダー都市との関係については、ここはこれからご議論いただくことになります。市長が言っている人と環境と都市の調和のとれたアジアのリーダー都市という位置づけにつきましては、この後議論いただく基本計画の八つの目標を達成するための戦略という形になっています。人と環境と都市の調和のとれたというのは、この八つの目標が達成した状態であって、アジアのリーダー都市というところについては、日本全体を牽引していくとか、他との関係でこういった位

置どりをしていくんだということで、それに向けた戦略のようなフレーズかなと思って
います。どちらかという都市像としての一つと言うよりは、その実現のに向けた戦略が
ワンフレーズになっているものはこちらとしては考えているところです。

○竹下部会長 どうでしょう。

○委員 だと思っんです。だから、考えないかなのかなという。

例えばこの四つの都市像、先ほど、4番目、アジアの拠点都市と。このアジアと入れ
られたことというのは非常に大きいと。大事なことなんです。大事なことなんです、
例えばこの参考資料の中で、みんなが描いた福岡市の未来で、市民4,500人の皆さんか
らどんなまちにしたいですかというアンケートをとっている。アジアなんていうキーワ
ードはどこにも入ってないですね。犯罪がないとか、活気がある、災害の備えだとか、
子育てとかで、アジアという視点は、今現在の4,500人の方々、それから自治協議会
の方々も、ここに載っている中ではそのキーワードは出ない。

これまでアジアというキーワードをもって福岡市が何をしてきたということが伝わ
てないようにも見えるし、アジアというキーワードでどうやってこの生活の質が変わ
っていくのかというところが今後、各論のところに出てくるわけですから、ならば、まず
福岡市としてはこうあるべきだというのがあって、その中の一つとしてアジアというキ
ーワードが出てくる戦略があっ方がいいのかなと思っんです。

ここはぜひ、福岡市とは何ぞや、どうしたいんだというところを大きな項目で立て
るべきだと私は思っます。

○竹下部会長 小川副会長、ちょっと補足発言を。

○小川副会長 おそらく福岡市がこういう基本構想を立てる場合、福岡市の基本構想とい
うだけでは、何を目標にしてやっているのかがわからないということで、今のよう
なもっときちんとしたビジョンとか、コンセプトがしっかりわかるようにする表現が必
要なんだろうと思っんです。そのときに、こういう四つの都市像というのは、何か焦
点がぼけたようなイメージになってしまう。

今のお話のように、市民の方々からの意見だと、アジアというのは視野の中になか
か入ってこない。しかし、産業界の方々から言うとかかなり深刻な問題で、アジア戦
略をどうするかということが大きな課題になっているということもあろうかと思っ
んです。四つだちょっと拡散して今みたいなイメージがあるんだとすれば、一つ明確
に何かこれらを表現したもう少しいい表現のキャッチフレーズ的なものを一つ立て
たほうが説得

力があるかも知れません。しかし、それは、今のお話のように具体的に内容を詰めて、最後のところでもう一度振り返ってこの点を議論したほうがいいのではないかなと思いました。

○竹下部会長 ここが一番基本のところなんです、だから、頭から議論するのもいいんですけども、議論が集約して、その次のステージで議論を深めるというのがいいかも知れませんね。ありがとうございます。はい、どうぞ。

○委員 最後に議論するのもかもしれないんですけども、一つだけ申し上げたいのが、ここに並んでいる四つの都市像のキーワードを見ていると、アジアというキーワード以外はどこ都市にでも当てはまるものだと思うんですね。九州の都市であればアジアが入っていてもおかしくないで、そう考えるとどこにでも当てはまって、福岡の特徴は何なんだというのが出ていない。その点は何とか表現をしていただきたい。

おそらくリーダーだとか、何かオンリーワンの表現が必要なんだろうと思います。その点を、先ほど一つにまとめるというお話がありましたけれども、もし一つにまとめるということで議論するならば、そういったところを一つにまとめた中へぜひとも盛り込んでいただきたいと思います。以上です。

○竹下部会長 わかりました。どうですか。はい、お願いします。

○委員 この基本構想の部分は後でまとめてというお話がございましたけれども、1点だけ、私のほうから気になる点を指摘させていただきます。四つの都市像の中の1に、自律した市民が支え合い心豊かに生きる都市と上げていらっしゃいます。自律した市民がというこの理念自体はそれでよろしいと思うんですけども、この文章の最後の段落を見ますと、これは文章の流れの問題なので小さいことかもしれませんが、私、弁護士としては、個人の人権が尊重されて初めて人は自律することができるという確固たる信念を持っておりまして、「福岡市はすべての市民が社会の一員としての役割を果たし」ということから始まるのではなくて、すべての市民がかけがえがない存在として大切にされ、一人一人が温かく支え合う心を共有し、それぞれが社会の一員としての役割を果たし、ともに心豊かに生きることでできる都市を目指しますというふうに、まず大事にされることから始まって自律するという発想をどうしても入れていただきたいと思っておりますので、冒頭になりますのご検討ください。

○竹下部会長 いいコメントをどうもありがとうございます。事務局、よろしくお願いし

ます。

ほかにはいかがでしょうか。お願いします。

○委員 前回も少しお尋ねしましたが、この福岡市の現状認識についてお尋ねしたいと思います。まず、策定の趣旨のところ、9行目、アジアに開かれたトップランナーとしてまちづくりを進めてきたという表現がありますが、このトップランナーとして進めてきたということはどういう内容を指しているのか、お尋ねしたいと思います。

○竹下部会長 お願いします。

○事務局（藤本） 事務局からです。これにつきましては先ほど部会長のほうからもお話がありましたように、基本構想の中にアジアと入れまして、アジア美術館ですとか、アジアマンスですとか、いわゆるアジア関連の施策を、日本の自治体の中ではトップを切って取り組んできましたということで、このような表現を案として入れさせていただいております。そう言えるかどうかというところは皆さんでご議論いただいてもいいかと思っております。

○竹下部会長 どうぞ。

○委員 今のお話だと、トップランナーというのは我が国の中でということですかね。それで、前回も申し上げたように、2ページの最後あたりには、「日本を牽引していく都市としての役割を担っていきます」と書いてあって、その前提としては、都市間競争が激化していく中でここを勝ち抜いていくということでしょうが、アジアというキーワードがこれまで構想の中で言われていて、言い方は悪いかもしれませんが、これがひとりよがりではいけないと思うんですね。福岡市が、ほんとうにそこで暮らす市民が住んでよかったと思えるまちになる必要があって、あまり「トップ」という言い方で身の丈に合わないことになっていくと、これはまさにこの部会の生活の質という点がおろそかになりはしないかということをお大変懸念しているんです。ここの2ページの中に、市民の暮らしや福祉、今言われた人権、そういうものについてはほとんど語られてなく、後に展開されてくるんですけども、全体を見る上で少し地に足がついた見方になっていないのではないかということを感じてしょうがないんです。そこら辺の見解をお尋ねできたらと思います。

○竹下部会長 どうでしょう。

○事務局（藤本） 事務局としてはバランスをとった形でご提案していると思いますが、それぞれ皆様、どちらかに寄っているのではないかというご意見はあるかと思いたすので、皆様でご議論いただければとは思いたす。

○竹下部会長 よろしいですか。

○委員 では、あと1点。そういうことなら意見を述べさせていただきますけれども、後で出てくる我が国全体の他の大都市、18ページに人口を含めて東京から名古屋、大阪など大都市がずらっと並んでいて、福岡市147万、そして都市圏240万、九州1,300万と出しています。この九州全体でとらえるとするなら、都市の規模としては他のところと並ぶでしょう。しかし、それが都市圏も含めて福岡がそこを取りまとめていくということについて、前回も議論になったように、他の自治体でそういう合意があるのか。これはまさにこれからの議論です。九州府構想にしても、都市州構想にしても、まさに議論は始まった段階で、この一くくりで他の都市と競争していきますよということがいいのかどうか考えたときに、私はかなり無理があると思いたす。やはりそれぞれの自治体に主体性があるわけで、福岡は福岡として147万市民、今後さらに増えていくでしょうけれども、その市民とともにどういうまちをつくるのかという観点で絞り込んで議論しないと、いろいろなところでひずみ、問題を生みかねないと思いたす。これは意見として申し上げておきたいと思いたす。

○竹下部会長 わかりました。大変重要なところなので、最後の部会あたりでもう一度議論しないといけないかもわかりませんね。私も、大体福岡なんていうのは、住宅都市としてとらえたほうがいいのではないかと思っていますので、ご意見はよくわかります。ほかにいかがでしょうか。お願いします。

○委員 これも表現の仕方の問題だと思うんですけども、私としては、この四つの都市像の中にもう少し教育といいますか、そういう観点を入れていただきたい気がします。福岡には九州大学のほか、たくさんの方がございまして、都市の活力については教育を避けて語ることはできないと私は思うんですね。もう少し教育という言葉がどこかに欲しいと大学を大切にす、教育環境を大切にす、そういう気がいたします。

○竹下部会長 大変重要なご指摘です。

ほかにいかがでしょうか。はい、どうぞお願いします。

○委員 四つの都市像については、バランス的には非常にとれているのかなと思っています。まず、1番の自律した市民が支え合い心豊かに生きる都市としてずっと書いてありますけれども、ざくっと今風の言葉で言うと、高島市長が進めていらっしゃるユニバーサルシティの実現かなということをしかり高らかにうたっていらっしゃる。

2番目の自然と共生する持続可能で生活の質の高い都市、これはいわゆるサステイナブル——持続可能という言葉に代表されるような内容で、例えば文言の中にはスマートシティとかサステイナブルシティとか、まだ定着はしていませんけど、いわゆるしなやかに強いということでレジデントシティというような大災害にも強いまちづくりというのも含めていただいていますので、非常に時宜を得ているのかなと。

3点目の海と歴史と文化の魅力が人をひきつける都市。これは、ざくっとくくる言葉はありませんけれども、いわゆる一般的なカルチャーシティという形でしっかりと文化、教養にあふれたまちをつくっていくと。

4番目の活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市というのは、これからはグローバリズムの中で、先ほど来お話が出てますけれども、福岡市単独だけではまちの発展はあり得ないので、いろいろな意味でアジアを含めた上で、環境問題も一つそうですが、そういった意味でアジアのリーダー、モデルシティとして、しっかりと福岡市の強みを発信していくということで、非常にバランスとれた四つの都市像だと私は思います。

○竹下部会長 どうもありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。どうぞお願いします。

○委員 子どものところなんですけれども、ここは「自ら学ぶ意欲と志を持ち」ということで、多分小学生以上の子どもたちを念頭に置かれているのかなと思うんですけれども、未就学児童というか、小さい子供たち、そしてそれを育てる保護者への支援というか、そういった子育てしやすいまち福岡というところが打ち出せれば、非常に温かい福岡市のイメージが伝わるのではないかと思います。以上です。

○竹下部会長 はい、どうぞお願いします。

○委員 転勤族に言わせますと、転勤で一度来て住みつきたくなるまちは、日本の中ではここ福岡か仙台か札幌だと言われてますね。ですから、福岡は住みやすいまちだと思うんですよ。人を受け入れやすいですし、人情もあるまちですので、女の人に元気がある、そういう点を入れていただけたらいいなと思っています。

○竹下部会長 女性が元気ということですかね。

○委員 はい。

○竹下部会長 女性の起業率というのは、福岡市はトップですよ。

どうぞ。失礼しました。

○委員 ここ10年が一番大切な時期と、先ほど小川副会長さんからお話がありました。それから、委員からも、何か一つ大きなテーマがあつてという。資料9全体を見て、確かにそうっておりますが、メガトン級の基本構想があつて、その次にキログラムか何かでその一つ下がったところの全体基本計画があつて、その後、第3番目にはグラム級がいっぱい並んでという構成全体を見ますと、一つの大きな目標がないために、多少そのあたりが入り乱れてないかなと感じます。そのあたりは今からの整理の問題だと思います。

今、自治協議会としては、自律した市民が支え合い心豊かに生きる都市、これが一番大事なところでして、22年の10月に市があり方を私たちに示したように、簡単な言葉で言うと、地域の自立の確立ということ、行政と私たちの関係はあくまで共働であるということ。それも20年にそういう話があつて、まだ完成もされておらずで、途中でありますので、どうしても向こう10年間、まだ時間のかかる話ですから、ぜひそういう文言を取り入れてください。今、地域と行政の間は、そういう関係ですとやってきております。日々、そこを問題にしてやってきております。ぜひそれも入れてほしいということ。

○竹下部会長 具体的なお要望ですね。わかりました。はい、どうぞ。

○委員 4番目のアジアの拠点都市という意味は、歴史的経過とか地理的状況の中でよくわかるんですけども、福岡市の特徴として非常に多国籍の、いわゆる多文化の人たちも結構入っていらっしゃると思いますので、経済的にぐいぐい引っ張っていくというリーダーという意味合いじゃなくて、福岡市がさまざまなアジアの国々の人から信頼される、いわゆる多文化共生の視点というものが、ここに必要じゃないかなと思うんですね。

○竹下部会長 多文化ですね。ほかにどうでしょうか。はい、どうぞ。

○委員 今、この四つの都市像の中で、構想の中で、ほとんど思ったことを言われました。教育をぜひ入れていただきたいなと思っています。教育がすべての基本だと私は思います。それで、こここのところを強く打ち出していきたい。福岡市としていろいろ大きなことを四つ掲げてあります。先ほどもおっしゃいましたように、他都市から見る福岡というのは、非常に住みやすく環境もいいし人もいいということは、私もたくさん聞いております。実際、そうしてここに住みついてある方も知っておりますし、友人もおります。しかしながら、この基本構想の中には、教育というのが絶対必要だと思えます。特に、幼少期からの教育というのが基本になりますので、ぜひお願いしたいと思えます。

○竹下部会長 はい、わかりました。

私からも一つお願いしたいのは、福岡は、留学生なんか来たときに案内すると、最初に発する言葉がクリーンということです。大気も問題なんだけれども、彼らが言っているのは、例えばごみがないとか、いろいろな意味できれいだと思っているんだと思うんですがね。ここの中に景観という言葉が一言も入っていないのはつらくて、今からは景観というキーワードがすごく大きな役割を果たすのではないかと思います。

次に行きたいんですが、ほかにいかがでしょう。ありますか。どうぞ。

○委員 話が戻るんですが、先ほど出てます教育というキーワードですね。これは非常に必要で、子供たちだけではなく、大人に対する教育——大人に対して教育とストレートに言わずとも、文化をつくっていくような文言が必要かなと、私も思います。それは、福岡市としての悪い点であるモラル、マナーが悪いとか犯罪が多いというところに非常につながってくるというところと、それを加える加えないは別にして、今、出ている四つの都市像の上に何か大きな一つのテーマが必要だと思っています。

○竹下部会長 わかりました。今、多くから意見をいただきましたが、1ステージ先に行きたいと思えます。申しわけありませんが、次のテーマに行ってもよろしいでしょうか。

次の3ページから、いわゆる総論という形で19ページまでありますので、ここに関してご意見いただけたらと思えます。それでは、どうぞよろしくお願ひします。どうぞ、小川副会長。

○小川副会長 ここは総論ですから、どちらかと言うと、これからの将来予測というのが一つの基軸にはなっているんですね。しかし、将来予測というのと将来に対する努力というか、その二つの面がもう少し明確に表現されたほうがいいのではないかなと思えます。

す。

例えば、こういう計画をつくる時には必ず人口枠組みをつくるんですが、ちょっと大ぐくり過ぎて現状分析にならない。できれば5歳刻みぐらいの人口について、今の趨勢で行くと将来どうなるかということ診断をして、それに対して明確にこういう戦略を立てるんですよというメッセージがわかるような総論の書き方がいいのではないかと思います。

先ほどから議論が出ております例えば教育の問題ですけれども、そういう5歳刻みで見ると、非常に深刻なことになります。この福岡市で減少するのは学生層なんですね。大幅に減るんです。今までの趨勢のまま行ったら学生数が大幅に減ってしまうと福岡市はどうなるのかということの一つは見なければいけない。ほかにも高齢者が大変な勢いで増えるということが予測したりできますので、分析のあたりも含めた人口フレームは、これでは大まか過ぎるというところがあります。

○竹下部会長 ほかにいかがでしょうか。今、小川副会長から出ましたが、私からも意見があります。

この文章全体がAランクをA2ランクにしようということになっているのではないかと思います。ところが、福岡市は問題もすごく抱えている。例えば今、小川副会長がおっしゃったように、今後はお年寄りの単独世帯が5割超える感じですね。これは都市にとっては大きな問題です。それから、若い人が減っていくというご指摘ですね。それから、私は住宅の問題を追いかけていますが、福岡市の空き家率がどんどん高くなっていくと思います。それからもう一つは、東京よりも持ち家が少なく、ものすごく賃貸化していったるんですね。いろいろな住宅事情の中でそういうことがあるわけですが、福岡市が今抱えている問題、つまりマイナスをプラスにするというのも総合計画の重要な役目じゃないかと私は思うんです。それがほとんどプラスをプラスにしているという感じなんですね。だから、マイナスにもぜひ挑戦していただきたいと思っています。

それで、6ページに具体的な年譜がありますが、二つほど指摘しておきます。これはプラスがプラスになった証拠がずっと出ているんですけども、一つは、例えば水飢饉がありましたね。すごいマイナスのことだと思うんですが、あれで福岡市が抜群の節水を生活様式の中に取り入れたという、これは誇るべきことだと思うんですね。そういうマイナスをプラスにした歴史もかなりあるのではないかと思います。それをぜひ組み込んでいただいたらどうかなと思います。

それともう一つ、年譜の中で、これは前もご指摘したんですが、1911年から1972年という福岡の近代化の一番重要なところが61年と飛んでいるんですね。それは寂しい。ここに現在の福岡市の骨格の中身が少しあるんですね。そういうのもぜひ入れていただけ

たらなという感じがします。先ほど、小川副会長がおっしゃった件と関連して発言させていただきました。

お願いします。

○委員 この3ページの基本計画策定の趣旨のところの並び方についてです。細かいことにこだわるようですが、この基本構想の四つの都市像からいくと、1、2、3、4と置かれているウエートの順番からして、基本計画の策定の趣旨も1番の丸はこれでいいと思いますが、2番目にアジアの交流による競争とかを上げるのではなくて、3番目の地球環境問題の深刻化が進みという、これが2番目に来るほうが、この四つの都市像のテーマの並び方に沿っているのではないのでしょうか。生活が中心に1、2と来て、そして、経済的な発展というふうな枠組みで流れているのではないかなという気がするんですね。

○竹下部会長 ご指摘ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。はい、お願いします。

○委員 人口のところなんですけれども、今後160万人程度までは福岡市は伸びるということですが、これはまさに近隣の自治体から人を吸い上げて福岡市の人口が伸びると言う、まさにこれまでの流れをそのまま伸ばすとそうなるという状況だと思うんですね。私は、個人的にはこれではいけないと思っておりまして、九州のリーダーとなって牽引していくためには、近隣から吸い上げるところでとまるのではなくて、さらに全国から人が集まる、あるいは、今だと、福岡をステップアップ、踏み台にして関東へ出て行っている方々が、「いや、福岡でやるんだ」というふうにとどまってもらえるような都市を目指すべきではないかと思います。

人口のピラミッドを考えますと、今後、高齢化率というのは高くなるんですね。少子高齢化という問題がありますけれども、これは何が問題かという、高齢者が多いことは問題ではないんですよ。若い人たちが減っていくことが問題で、そこに歯どめがかかり、高齢者の方々の数の増加を前提にしたら、もっと人口は多くなっていいと思うんですね。そう考えると、もっと自然増を図らないといけないということもありますし、それから、全国から人が集まる、あるいは福岡から東京へ流出している人たちをとどめる、そして外国からも人を集める。このまま行くと160万人ぐらいになるのかもしれないんですけれども、個人的には、そうやって200万人ぐらいを目指していいと思っています。現実はどうかわからないですが、目標としてはそれぐらいを掲げて都市像を議論していったほうが、いろいろと建設的な意見が出てくるのではないかなと思います。

以上です。

○竹下部会長 どうぞ。

○委員 若干関連するんですけれども、部会長おっしゃったように、今から福岡市も2030年をピークに人口減少します。その間、高齢化は進んでいきます。そして、生産年齢人口が減っていく。こういう中でアジアの活力を吸収するという考え方はもちろん大事だと思うんですが、福岡市として超高齢化社会の中で活力のある社会を持続してつくっていくということについては、福岡市というまちのインフラ、まちづくり、それから人の暮らし方、そのあたりのところをもう一度やり直さないといけないのではないかなと思うんです。それは、私は、福岡市として挑戦していくべき課題だろうと考えます。

高齢者が増えていく中で、問題は、元気な高齢者がいつまでも社会的参加できるようなまちづくり、それから、暮らす上でも暮らしやすいまちづくり、そういうことにチャレンジする気持ちでまとめていただけるとありがたいと思います。明るい高齢社会を築く可能性がある都市というのは、おそらく日本にそうなくて、福岡市は少ないそのうちのひとつと認識しておりますので、そういう認識を持って前向きに挑戦するべきじゃないかなと考えます。

○竹下部会長 はい、どうぞ。

○小川副会長 今の意見に賛成なんですけど、実は、そういう面で私も一つの文言をこの素案の中に忍ばせています。今、WHOがアクティブエイジングという政策フレームを打ち出しております、これをそれぞれの国に義務づけています。それと同じような形で自治体に対してもエイジフレンドリーシティーというグローバルネットワークを今、組んでいるんですね。今おっしゃったように、元気に高齢者が社会の中で健康を維持し、安全を確保され、そして参加をしていくという都市をつくっていくような運動になっているんですね。それにまだ日本からは秋田市しか参加していないんですが、福岡市なんかはその要件を満たせる条件がそろっているんで、そのあたりのところも念頭に入れながら施策のところで考えていけばいいなと思っています。

○竹下部会長 どうもありがとうございます。はい、どうぞ。

○委員 先ほど、福岡市のマイナス面ということで部会長さんがおっしゃいましたけれども、私もマイナスというか、仕事柄、市議員しておりますが、市民の方から現在の実態について、いろいろな要望や意見や相談が寄せられます。そういう中で、今、福岡市

は食べ物もおいしいし、私も好きなんですけれども、そういう住みやすさの半面、暮らしやすいかどうかということについてはいろいろな思いがあって、なかなか大変な暮らしぶりの方も増えているように感じます。

資料の中で12ページに現在の状況を書いておりますが、犯罪が多いこと、それから単独世帯が増えている、中でも高齢者単身世帯が増えている、若者が増えてきたが今は減っている、こういうことをいろいろ分析してあるんですけれども、そのほかにも、各種保険料が高いとか、税金が高いとか、そういう実態も多々あろうかと思うんですね。そういうものについて市民の皆さんから福岡市に対する要望も大変強まっていて、福岡市のように請願、署名運動などが盛んなまちはないと言われるぐらい、ここ数年、そういう要望が議会にも寄せられております。

そういう実態を踏まえたときに、前回の基本構想から今日に至るまで「アジアの拠点都市」というのがキーワードとして掲げられてきたんですが、この二十数年の中で本市がほんとうに元気になったのか、市民の暮らしが活力あるものになったのかというのは、冷静に見ないといけないと思っています。

その点で、今回出されている資料の中でも、例えば15ページにグラフが出ていますが、1985年以降2009年に至るまで市民1人当たりの所得、あるいは国民所得は2000年代に入ってから増えていない。むしろ若干下がっている。これは、福岡市民の暮らしぶりが厳しくなったことのあらわれだと思うんですね。このあたりをしっかりと目を向けて分析をする。雇用の面でもなかなか厳しい状況があります。こういう指標が今回の中にも出てきているし、市税収入だってそうですね。もう1冊のデータで見る福岡市の推移の中の21ページ、ここには市税収入が増えていない実態が浮き彫りになっているんですよ。税収を増やすには、市民の暮らしが一定安定していて、市民税を納めていただける額も人数も増えていくことが必要で、こういう都市の成長像というか、そういうふうに進んでいくと、これこそ強いまちになるというふうに思うんですね。

ですから、私は、よそから人を呼び込む、企業を呼び込むということに集中していくのではなくて、そういう市民の暮らしに目を向ける、雇用をどうやって市内で増やしていくのか、こういう発想を持ったまちづくりこそ求められるのではないかと考えております。今回のこの表現は、呼び込み型、勝ち抜き型、競争型になってはいますが、そうじゃなくて他都市とも共存できる、そして、福岡市は福岡市でみずからそういう足腰の強い経済にしていくことを目指したらどうかと思います。

○竹下部会長 はい。関連しますか。どうぞ。

○委員 先ほどから出ている人口問題とか高齢者の話ですが、まず一つ目、人口問題に関

して、福岡市というのは日本の中においてもほかの都市圏と比べて高齢化率というのが非常に遅い状態です。生産労働人口に関しても減りが非常に遅くて、関東圏と比べても10年ぐらいおくらしている状況なので、逆に言うと、まちづくりの一環として高齢者のことに取り組むという意味では今がチャンスだと思います。なので、そういった文言を入れるという話は非常に賛成です。

もう一つ、「人と環境と都市が調和のとれたアジアのリーダー都市を目指し」と一番下に書いていますが、実際にそのことが書いてある20ページに「コミュニティ」という文字が出てきています。福岡市の特に都市圏である中央区、博多区に関しては単身世帯比率というのが非常に高く60%を超えていて、これは東京都23区よりはるかに高い数字なので、「コミュニティ」という言葉を入れてほしいなと思っています。

○竹下部会長 関連してお願いします。

○委員 今の関連なんですけど、12ページに高齢率の話がずっと出ています。実際、将来予測として、福岡市内では高齢化率が30%ぐらいまでいこうという予測になっておりますが、地域によっては現実に今、30%に届くところがたくさん出てきています。今言われましたように、福岡市は、これは利点として生産年齢人口も高齢化率も、全国から見るとまだしばらくいい形が続く。そういった中で現実、住民人口の3割が65歳以上になるということは、その地域自体の形が変わらざるを得ません。コミュニティの話にしても、極端な話を言えば、何かあったら70歳が90歳の方を背負って逃げないかとか、声をかけないといけない、自分たちで守り合っていないといけないということが現実に起きてます。ですから、まちの形が変わることを踏まえて、この10年なりの間でどういうふうに福岡市としてそれに取り組んでいくのか。社会実験のような形なのか、その手法はまた先の話だろうと思いますが、この計画の中で将来の福岡市が取り組むべき課題については、大きなものはある程度わかりますから、その中で、10年で取り組むべきことを、将来の計画像の中に先に具体的に入れ込んでしまうというのもいいのではないかという意見を私としては持っていますのでよろしくお願いします。

○委員 今回の計画の策定の趣旨のところ、2点意見を申し上げたいと思います。

まず、この基本計画のそもそもの議論の前提になるんですけども、昨日ですかね、私は行政改革の委員も同時に仰せつかっておりまして議論させていただいているんですが、福岡市は人口も増えて、アジアのリーダー都市といいつつも、財政状況はすごく厳しいんですね。あちらの議論で話をしているように、今なぜ基本計画や行革などで見直しをしなければいけないのかというのは、まちづくりも選択と集中が必要であって、い

よいよ今までのやり方が通用しなくなったということで、根本的な前提条件を変えないといけないと考えております。いろいろなご意見も、最終的な都市像とか政策目標に向かって、ある程度優先的にやっていくものと、少し我慢するみたいなものを仕分けして整理するというのが、この基本構想の策定に当たっては重要なのではないかと考えております。まず、それが1点です。

2点目なんですけれども、その考え方を受けて、決定的に変えていかないといけないと思うのは、行政と市民の役割分担ではないかと考えております。私は市民参加——今は市民共働といいますね——の現場でいろいろなコーディネートをお手伝いさせていただいているんですけれども、先ほど委員のどなたかからの中で、市民の方にはいろいろな要望があるというお話があったんですが、行政サービスにいくら要望しても生活は変わらないんですよ。

結局、要望されたときに、では、あなたは何ができますか、だとしたら、行政はできない部分はやりましょう、お互いにやるにはどうすればいいですかという対話をやっていく。部分的にでもサービスの受け手から担い手になっていくという形でしか、住みやすさは多分つくれないような時代になってきていると思います。そういう意味では、行政の方ないしは私たち市民自身のあり方や考え方、役割を変えていくことを前提にして計画をつくっていかないと、いろいろなことを言うんですけれども、結局、行政がやってくれなかったというだけの計画になってはすごくもったいないと思います。その2点を前提条件として織り込んだ上で、この議論を展開していくのが望ましいのではないかと考えております。

以上です。

○竹下部会長 どうもありがとうございます。どうぞ。

○事務局（藤本） 今、委員からのご発言がありましたように、行財政改革の有識者会議というのが別途、並行して行われております。少し解説しますと、何のために福岡市が改革をやっていくのかという根本として、マスタープランの都市づくり、それから財政の大きなフレームを踏まえて考えていくべきではなかろうかという議論が、昨日の有識者会議でされております。

本市の財政状況の10年ぐらいの見通しを財政当局のほうで整理いただいておりますので、もしよろしければ次回にでも少しご説明させていただく機会を設けさせていただいて、本市の財政状況がどうかという大きな前提のもとご議論いただきたいと思います。ただ、お時間もございませんので、前もって資料をお配りするなり、進め方は少しご相談させていただきたいと思っておりますけれども、そこは大事なことから我々も認識しており

ますので、よろしく申し上げます。

○竹下部会長 後々のことで、議論をどこかで組み込むという理解でいいですね。

○事務局（光山） はい。現在の我々のマスタープラン、基本計画上の行財政運営に関する部分の記載としては、22ページに計画推進に当たっての基本姿勢ということで、（1）行政運営の基本姿勢の②持続可能な行財政運営ということで、かなり理念的な、大きな考え方だけを書かせていただいています。

計画論上のたてつけから言いますと、基本構想という大きなまちづくりのコンセプトに近いようなものがあります。その下に10年間で何をやるかという基本計画があります。その下に、4年間で具体的にどういう事業をやるかという実施計画がございます。この実施計画と対になる形で、行財政改革プランをつくっていこうという形になります。

企業さんで言われる中期経営計画というものは、この一番下の実施計画と行財政改革プランがセットになっているようなものですので、具体的に何をやるか、そのためには何を選択と集中して見直していくのかというところが、実施計画と行財政改革プランという関係になっております。こちらの部分についてはまさにこの基本計画、基本構想のご審議を受けながら、具体的な話をどうしていくかを考えているという状況にありますので、たてつけ上はそうでございますけれども、理念、哲学というのを、この上位であります基本計画にしっかり書き込むことが大事だろうと思っています。その前提としての財政の将来フレームあたりは、少しご説明を差し上げる必要があると思っています。

○竹下部会長 わかりました。では次の部会で議論できますね。それでは、ほかに。

今、19までやっているんですが、20から22ページのご意見がもう出始めていますので、3ステージとって思っていましたけれども、ここを含めてご意見がありましたらいただきたいと思います。どうぞ、お願いします。

○委員 先ほど、行政に頼るばかりでなくというお話が出ましたけれども、平成16年、校区ごとに自治協議会というのができまして、その中で、自分の校区の地域は自分たちでやっていこうという動きに現になっています。そして子供からお年寄りまで、自分たちの校区は自分たちで守ろうと、福岡市の行政のほうもそういうふうに通じていってほしいように思いますし、私どもも少しずつですけども、そういうことがわかってきました。ですから、よその都市のことはよくわかりませんが、福岡市は比較的そういうことが浸透しつつあるのではないのでしょうか。

○竹下部会長 そのとおりだと思います。小川先生が詳しいかもわかりませんが、ヨーロッパあたりでは都市の中でさらに分権する都市内分権というキーワードで、校区単位に一種の行政権を与えて、自主的に運営していこうというような動きもたくさんあります。率先して福岡市さんは意図されているんじゃないですか。

○委員 そのとき地域の底辺の悩みは、ほとんど決まった人が何役も引き受けて何役もやり、ある程度同じようなメンバーで、どこに行っても顔合わせしているものですから、そこら辺のすそ野が広がることが重要ではないかと思います。

○竹下部会長 リーダーを育てなきゃいかんね。それでは、ほかにどうでしょうか。

僕が一点、ちょっと自由にいいですか。北九州ね、福北に関するメッセージがほとんどこの中に入っていないくて、福岡都市圏からいきなり九州になって、それからアジアという形になっています。北部九州というか北九州・福岡の連携については、どうでしょうか。お願いします。

○事務局（藤本） 福北連携につきましては、実際に福岡市と北九州市さんの連携した取り組みということでやっております。ただ、新幹線の開通とかもありまして、福岡と北九州ということだけでなく、福岡、熊本、鹿児島という都市間連携の動きもできております。

具体的に、例えば今回の総合特区の申請の際は、福岡県・福岡市・北九州市ということで、具体的に組んでやるという場合もございますが、観光であれば九州全体でやろうという動きがあったりということで、特定の部分というよりはいろいろな組み合わせでやっている場合がたくさんあります。今、原案的にはいろいろなことでまとまっている福岡都市圏、あと九州でいろいろな連携というようなことで、福北というメッセージは今おっしゃるとおり入っていない状態なんですけど、そこにつきましては実態上、例えばどのように感じられているかとか、そこは議論いただければと思います。

○竹下部会長 どうでしょうか。お願いします。

○委員 今、行財政改革の視点でのご意見と、福岡市が進めてきた地域との共働、「共に働く」という独自の書き方ですが、こういう視点でのご発言がありましたけれども、私は行政の果たす役割、責任、これはなくしてはいけない、あるいは削ってはいけないものがあると思ってまして、それに加えて地域の皆さんの自主的な取り組みや自治会活動などが活性化することで、うまいぐあいとともに役割を担っていくということが大

事だろうと思っています。昨今は行政のスリム化というのが言われていて、必要な部分からも行政が手を引いて、それが例えば地域の民生委員さんの仕事の量に上乘せされるとか、そういう具体的な形が多々あらわれていて、「そんなことまでなかなかやれませんよ」という声も結構聞くんです。

例えば子供さんが生まれた家庭に訪問する「すこやか赤ちゃん訪問事業」という——今はちょっと名称が変わっているでしょうが、そういう事業も民生委員さんに新たにお願ひするようになってきているんですが、そこでも本来、保健師などの専門家の方が行っていただくところに、民生委員さんという、もともとから言えば役割が違う方が参入して役割を担っていただいている。

例えばですが、そういう問題で、行政と地域の役割をしっかりとしなくてはならないときに、行政がやるべきことはきちんとやるということを確認しないと、財政が厳しいからといってどんどんそこから撤退していくと、これは結局、市民の困難を増やしたり、先ほどの議論で私が申し上げたように、市民の活力をそいでいたり、不安が広がったりということにつながりはしないかと大変懸念しているし、実態としてそういう問題も起きていると思っています。

それで、22ページに書かれている「持続可能な行財政運営」の先ほど言われた選択と集中なんですけど、ほんとうにこれをどうやって選び、そしてどこに集中していくのかというのは、この部会でも市民の皆さんの声をよく反映した議論が今後も必要なのかなと思っています。私は私として意見がありますけれども、市民の皆さんがどういう方向を選んでほしいか、どういうところに税金の投入を含めて集中を願っているのか、これは私たち委員の一人一人がとらえる必要があるのかなと思っています。

○竹下部会長 どうでしょう。お願いします。

○委員 今のご意見とは少しテーマが変わるんですけども、福岡市の基本計画の中で、観光を盛んにしようという目標を市長さんが持っておられて、古い歴史のまちの福岡を観光に結びつけると。僕はこれはこれでよろしいかと思うんですけども、観光振興は結果であって、歴史は文化ですので、文化とか学問の力というものを都市が目的意識を持ってつけていくと。都市間競争の中でこれからは経済力の競争だけでなく、文化とか学問の力で競争していく時代になっていくのではないかと。そういう歴史的背景は福岡に十分ありますので、それを文化の力に変えていく意識が必要ではないかと思います。

それは先ほどの教育にもかかわってくるんですけども、学問を大切に文化を創造していく、それがひいては観光の振興につながっていくと私は思うんですね。観光を振興する前に、もう一ステップ、大切なところを踏まえていただきたい。私はそれを文

章に入れていただきたいと思います。

○竹下部会長 どの辺がよろしいですかね。

○委員 福岡市自体、古くから現在まで、歴史は山のようにあるわけです。それを文化の形にしていくということは、箱物づくりにもつながっていくわけでしょうけれども、それをまず文化として認識し、整理して発信する作業が要るのではないか。それがひいては観光振興につながるという表現ができないでしょうかね。

○竹下部会長 わかりました。どうぞ。

○小川副会長 おそらくそれは都市経営の基本的方向性の中の、かなり基本的な問題になってくるのではないかという気がするんですね。福岡市のような都市が成長できるのは、市民の力だけではないんですね。周辺から随分の人たちが日常的に働きに來たり買い物に來たり、それから遠くから観光に來られたりという、その力を吸収して成長している部分があるわけです。

その部分はある意味では、経済的に見れば福岡市にとっていいことなんですけど、行政上はそれが引き起こしている、例えば交通麻痺の問題であるとか、よそから來た人たちによる犯罪の問題であるとか、そこに住んでいる人とよそから來る人たちとの間のさまざまな摩擦という問題に行政がかかわらなければならないという課題があって、福岡市の行政はこういう交流人口を増やせば増やすだけ、市民の人たちから言うと「何でそんな」というサービスをやらなければいけない場面も出てくる。そのあたりの調整を図りながらやっていくということが、今の問題に関係するんですね。

資源にしてもそうです。資源というのはそこにあるものですが、歴史的ないろいろなものがあつたとしても、それを観光ということにした途端に、もしかすると地元にいる人たちとの間にコンフリクトを引き起こすこともある。その部分は行政が、どういう調整を図るかというところを覚悟として示していかなければいけない。そういう文章がどこかに入っていたほうがいいのではないかと思いますね。

○竹下部会長 今までの議論の中で、観光というキーワードがちょっと薄いもんね。ページを追ってみると、観光というキーワードがなかったんじゃないかな。ありましたかね。どうぞ。

○事務局（光山） 次回、各論の中で少しご議論をいただこうとは思いますが、前

回の総会でお配りしました資料8が施策体系の一覧ということで、全体像が見えるペーパーになります。政策目標5の部分は、総体として人を引きつけるということで、ここの中はほぼ観光というようなキーワードで、そのためのコンテンツをどう磨いていくかということを含めて、一応整理させていただいているつもりではございます。

それと、先ほどの都市経営の基本的な考え方が20ページにございます。都市経営の基本的方向性の大きな考え方としては、生活の質を高めて、その質の高いところに人と投資を呼び込んで成長を実現し、その成長によってさらに生活の質が高まるという好循環をつくっていきたいということを大きな都市経営の方向性として掲げさせていただいているところですが、都市の成長の考え方としては、この図柄の右側の円の中に少し書かせていただいております。

まず短期的には、観光、それからMICEといったものを強化・充実することによって人に集まっていただいて、いろいろお金も落とさせていただく。次のステップとして、中期的にはそのMICEの交流からビジネスの開発とか、スタートアップシティなど、いろいろなことに挑戦できるような都市になっていく、長期的には、企業の立地、創業、そして雇用にきちんとつなげていく。これは戦略と言えるかどうかわかりませんが、考え方としては、ここにご提案をさせていただいているところで、あと具体的な施策は先ほどの政策目標5あたりで触れておりますが、確かに言われてみると、「観光」というストレートな言葉は少ないなと思っております。

○竹下部会長 はい、どうぞ。

○委員 先ほど委員からご指摘があった点も含めて、この20ページの都市経営の基本的方向性の文章の流れについて、ちょっとこだわって恐縮なんですけど、(1)の1番目の丸のところですね。「福岡市は住みよいまちとして国際的にも高い評価を得ており、コミュニティの活性化や地域の支え合いにより、だれもが生涯にわたって安全で安心できる生活環境を確保するとともに」の、その先の文章、「歴史や文化、教育、緑や街並みなど、都市の魅力に磨きをかけ、生活の質を高めていきます」というところですね。ここに委員からご指摘のあった、福岡の独自の文化とか歴史とかを尊重するというあたりを盛り込めるのではないかと思いますので、「独自の歴史や文化を尊重した上での教育の振興や景観の保持などに努め、より魅力的な都市づくりに心がけて生活の質を高めていきます」という流れにしますと、一定、皆様がおっしゃっていたような内容を盛り込むことができるのではないかなと。さらに観光というところをどこに位置づけるかというのが、この丸の1番目か2番目か、このあたりだろうと思います。そのような工夫をされてみてはどうかと。

この「緑」と「街並み」というのが、この全体の文章の流れからすると、ちょっとバランスが悪いところもあるんですね。ですから、これも委員からご指摘のあった「景観」という言葉を使ったような表現に変えると落ちつきがよろしいかなという気がいたします。

○竹下部会長 どうも、具体的にありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。どうぞ、お願いします。

○委員 ちょっとおくれてきて、食い違ったことを言うかもしれないんですけども、来てからずっと話を聞いていまして、一つ、観光と先ほどの共働との関係で少し話をしたいなと思ったんですが、福岡型の観光は、確かに歴史的、文化的なものを含めて、大事な面があります。ただ私が考えるのは、福岡の観光としての大きな強みというのは、ハブ型の観光として、さっき部会長が言われたように、北九州エリアもそうですけれども、市の中で閉じた観光ということではなくて、九州エリアを含め、観光をネットワークでとらえて、そのネットワークをマネジメントできるまちとしての福岡という視点もあるのではないかと。市内だけをまとめてしまわず、例えば国内でも関東圏、関西圏の人から見ると、福岡というイメージはどうも九州全体に及んでいて、ハブ的な要素を生かした、ちょっとアクティブな観光という視点。

そうすると、ここに訪れた方々が都市から受ける印象として、ホスピタリティーを感じるということがとても大事だと思うんですね。先ほど来話が出ている共働——私も共働事業にずっとかかわっているんですけども、共働によるまちをみんなで一生懸命手をつないで進めていくという姿勢がいろいろなところに出てくることで、歴史的なものを見るとき、イベント性の高い祭りを見るというだけではなくて、日常の生活の中に、福岡からにじみ出すホスピタリティーのようなものを感じてもらえるのではないかと多うんですね。

福岡市としては共働で進めています、私が一緒にやっていると、先ほど話に出ましたように、行政があって自治協があって、そしてNPOがあって企業のボランティアがあると。確かにその活動はしているんですけども、その結びつきはまだ弱いんですね。こういう言い方をすると怒られるかもしれませんが、自治協はかなり内側を見ている。NPOによっては外向きになってお互いをつなごうとしている。ただ、それが自治協としてはなかなか理解できない。

さっきの、福岡が持っている外に開かれた人間味であるとか、つき合いの広さとか、なじみやすさといったようなところで、共働のあり方が、まさに福岡ならではのまちづくりのスタイルとして発展し、一つの観光資源となっていく面もあるのではないかと。

すから、今から観光資源をみんなで作って出しませうよということよりも、そういったものを大事にして、まさにここで書いているとおり、市民といろいろな団体の方たちがお互いに手を結ぶ方策をどうするか。

先日、老人クラブ連合会の話し合いに参加したとき感じたんですが、団塊の世代が高齢年代に入ってきているときに、老人クラブ、シニアクラブの入会率が非常に低い。つまり老人クラブが自治協やまちづくりの活動を大きく支えてきた面があるんですけども、それが途絶えそうになっている。例えばNPO活動、もしくは団塊の世代の方たちが企業でやっていたボランティア活動みたいなものが、そこで一たん切れてしまっていて、社会、要は自分が住むまちの中での活動にまで至っていない。

そういった世代をこの中でどう生かしていくのかということも含めて、私は福岡の持っている、人をウエルカムで心地よく招き入れるというところを支えるのは共働かなということを感じております。

○竹下部会長 それでは、関連してどうぞ。

○定村副部会長 関連する話題で、先ほどの選択と集中という話にもつながると思うんですが、皆さんもうぼんやりとはあっても、経済は一時のように強烈な右肩上がりはないぞと確信していると思います。それこそ九州の拠点として、右が上がればまだいいほうで、極端な好転というのはないと僕は思っています。したがって、市の財政も急に好転するという話はなくて、選択と集中というのがとても大事で、先ほど言いましたNPOとかいろいろな力が、多分その面にも必要なんだろうと思います。

私はデザインリーグというNPOをやっているんですが、景観室がこれまで進めていました景観賞という事業があります。もう20年目ですが、これの運営を昨年度から私どもが肩がわりしてしまっていて、景観室の中では2人工（にんく）か3人工がかかっていたところを、私どもは1人工で進めます。これも多分、肩がわりの一つだと思います。

ただし、NPOとか企業のボランティアばかりに頼っていたのでは、先ほど言われたように、同じ方ばかりが委員で、自治協で負担がかかってというふうには、必ず限界が来てしまいます。NPOも同様です。ボランティアで持ち出してやりますよという仕組みは、どこかで限界が来るんですね。ですから、これが持続的に回る仕組みが大事なんだと思います。

これは、それこそ去年の震災以降、ソーシャルビジネスという形で、行政が財政的にカバーできないところ、もしくは行政が目が届かないところを肩がわりして動かしますよという仕組みなんです。経済がついた仕組みなんです。だから、「皆さんの力が必要です」というのではなくて、「もう行政は限界があります。だから、こういう仕組み

を新たにつくり出しますよ」というフレーム的なところが、これから必要になるんじゃないでしょうか。「市民が何ができるのか考えなさい」というのは、漠然とし過ぎていると思います。

以上です。

○竹下部会長 うなづいていらっしゃった委員さん、どうぞ。

○委員 ふだんは高齢者とか主婦層のマーケティングをやっております。おっしゃるとおりだと思います。先ほどから出ている意見に重なる部分があるかと思いますが、自治協の話も高齢者のマーケティングのときによく話題になるんですが、実際、なかなか人手がないとか、かわり手がいない。先ほどおっしゃったように、その現実を踏まえた新しいあり方、フレームづくりみたいなものが改めて要るんだろうと思います。私自身もそのように感じています。

あと、コミュニティという言葉ぜひ入れてほしいと委員がおっしゃいましたけれども、私自身もそのように感じています。

○竹下部会長 ありがとうございます。どうぞ。

○委員 私は皆さんのご意見を聞きながら、この都市経営の基本的方向性をもう一度見直していたんですが、この中に「福祉」という言葉が1カ所だけ、下から7行目ぐらいのところに出てくるんですけども、保育所づくり、あるいは特別養護老人ホームづくり、こういう子育て応援、高齢者支援というのは今後ますます重要になってくる。これは民間では担えない、行政がしっかりと支えていく必要がある分野だと考えています。そういう福祉の分野で必要な整備を行い、そして必要な人材も確保することは雇用にもつながってくるわけで、福祉を充実させるという方向での経済活性化にもつながっていきます。

一方、暮らしを支えるということで、地域の経済、中小零細のところの営業にもしっかり目を向けて、そこが倒産しそうだということであるなら、行政として何らかできないかということを考える。そうやって地域のすそ野で福祉や暮らしを応援するところにこそ私は集中していく必要があるのではないかと。観光や企業の呼び込みというのは、その後についてくる話ではないかなと思っています。

そういう視点からすると、ここの都市経営の基本的方向性の中に、「福祉や暮らしを応援する」的な文言をぜひ入れていただきたいし、そこが欠落している状況ではまずいのではないかと考えています。そういうことによって福岡市の住みやすさを高めていく

ということが必要なのではないかと思います。

○竹下部会長 どうぞ。

○委員 欠落しているということを先生が言われたので。

これは大きいところなので、皆さんがどうとらえるか、本市として何ができるかというところもあるんですが、九州の中核、アジアの中心としてやっていくと。経済的な面を含めて、いいほうでの牽引をしていくという方向性は見えるんですが、一方、大都市の役割として、今回の東日本大震災の件を踏まえて、災害が起こった場合、九州でどのような役割を果たすのか。例えば九州の災害支援拠点基地をやりますとか、その連携その他は本市が中心になってやりますとか、そういう部分まで含めた上で九州の中核都市、アジアの中心であるという言葉が成り立つのではないかと思います。

お金のかかる大きな避難所システムをつくりなさいとか、支援装置をつけなさいということではなく、九州一円で災害が起こった場合、どこで何が起こっても、本市が中心となってその体制をつくっていく、それが大都市としての私たちの役割であるというようなところもつけ加えることが必要なのではないかと、そこが欠落しているのではないかと思います、どうお考えでしょうか。

○竹下部会長 ご質問ですので、どうぞ。お願いします。

○事務局（藤本） 今の段階では、九州の中での大都市として求められる役割が変わってきましたということですので、災害について特に除外していたわけでもなければ、特に想定して入れているという状態でもございません。災害の場合は、他の県なりとの広域的な役割分担みたいなお話もありますので、今の段階でどこがどうというところは言いにくいかなと思いますが、考え方としては入っているのではないかと思います。

○竹下部会長 はい、どうぞ。

○委員 残念ながら、この具体的な施策のところを見たら、本市の防災対策についてはちゃんと書いてあって、防災に関してだけは我が町の市民だけを守るような中身になっているので、これではちょっと悲しいな、残念だなと思います。ぜひ入れていただける手法があれば、考えていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○竹下部会長 どうぞ、光山さん。

○事務局（光山） 今のご議論は、19ページの「大都市としての福岡市の役割」というところに関連するのかなと考えております。大都市の定義も昨日議論があったところなんですけれども、先ほど説明がありましたように、九州とか日本全体とかアジアとの関係性において、福岡市はどのような役割、機能を果たすべきであろうかということで、今の災害の観点から言うと、日本全体としてのバックアップ機能というところは、丸の3つ目ぐらいに書かせていただいております。九州全体としての災害に対応する福岡市としての役割について今ご指摘をいただきましたので、少し検討させていただきたいと思えます。

○竹下部会長 はい、お願いします。

○小川副会長 今のことにも関連するんですが、大都市としての福岡市の役割の書き込み方だとか、そのほかアジアの中での位置づけのあり方とか、言うなれば都市間連携、あるいは都市と農村との連携とか交流といったようなところでの位置づけ方については、もう一段いろいろと検討しなければならないことがあるのではないかなと思うんですね。それがちょっとまだ未整備な形ですし、今は連携のあり方も非常に多様になっていて、それは昔ながらの広域行政圏のような形ではまとめられない。ネットワークが非常に複雑になっているので、そういう中で福岡市がどのような位置づけになるのかということをもうちょっと整理し直してください。

今のご質問があったような災害時についても、いろいろ期待されることがあるでしょうし、やらなければいけないことがあります。例えば、福岡市で災害が起こった場合に、被災される方は市民だけじゃないんですよ。ここに買い物に来ている人、交通の途中で被災される方もおられるわけです。そういう人たちに対する第1次の救急はここがやらなきゃいけないんですね。そういったような問題に対してもちゃんと責任を持つというイメージが伝わるようにしておかなければいけませんので、都市間あるいは地域間の連携、交流、そういったようなことについての書き込み方を、もう一段工夫されたほうがいいのではないかと思います。

○竹下部会長 わかりました。19ページですね。どうぞ、お願いします。

○委員 話を折るようでございますが、福岡市の場合の市民との共働は、むしろ条例に近い共働でありまして、市と我々市民団体、自治協あたりが話し合いによってお互いに共働きをしてという、いわゆる情緒的な話ではございません。おそらくどこの都市も共働

という言葉は使っているにしても、福岡市の場合は全国でただ一つの例の共働でありまして、それは16年に町世話人以下を廃止して、行政からの手当をもらっている地域の役員は一人もいない、手当はゼロだという中の自治協であります。

町世話人時代はどのぐらいのことを市は依頼していたかという調査の記録があります。ちょっと今、数字をはっきり覚えておりませんが、各課で調べた結果、何百という依頼事項がありました。町世話人時代と違って、自分たちでつくった自治の長、組織に対して一方的に依頼すべきことではないということで、前市長のときに、もう一遍考え直さない、どのぐらいのことを依頼しているかもう一遍正確に調べなさいということになりました。これは皆さんもご存じのとおりで、各課の調査があったと思います。そういうことで随分その数は減りましたが、まだたくさん残っております。

さっき委員からも話がありましたけれども、そういうことを踏まえて、我々自治協が16年にできて、18年から2年間かけて自治協のあり方、そういう制度のあり方を見直して、平成20年の10月に福岡市が私たち、あるいは職員全員に、「こういうふうにしましょう。これが今の自治と行政とのあり方です」という一つの小冊子を配付しました。その中にあります共働というのは、条例に近い共働であります。

今さっきちょっと出て気になったから改めて言いますが、自治協のあり方を変えようとか、自治協と各団体、いわゆるシニアクラブとの関係とか、そういうものを変えようとかいうことは今のところ実は少数の意見でありまして、まだまだこれから10年、20年、この制度はしっかり続くものだと思います。

さっき申しましたように、行政から言われる市民との共働というのは、ここに書いてありますとおりです。ただ私たちから言いますと、自治の確立と。行政からいろいろなことを一方的に受けませんよ、それについてはしっかりした自治組織を持って、今後話し合いで解決していきましょうと。そこには共働、それから「よきパートナーとして」という言葉も入っています。そういうことで、町世話人制度をなくして、自治協は平成16年から大きく変わりました。現在の制度を少しでも変えていこうという風潮はございませんので、そこは確認しておいていただきたいと思います。

これも福岡市の議員さんの中で、条例化しようという話もちょっと出ているようですが、あとはよろしく願います。ちょっと確認しておきたいと思ひまして、お話ししました。

○竹下部会長 どうも、いいご指摘ありがとうございます。

(休 憩)

○竹下部会長 今日はいろいろな角度から意見を言っていただくということです。それで、限られた時間の中での限られたページ数の割りつけのご発言だったんですが、今からあと30分近くありますので、総合的にご意見をいただけたらと思います。各論は次回ということにしたいと思いますので、今日は1ページから22ページについて、観点をいろいろ変えていただいて結構ですので、再度ご意見をいただければと思います。

指名すると怒られますか。多分、委員の中で一番若手ではないかと思いますが、どうぞ、何かございましたらいただきたいと思います。

○委員 ただいまご指名いただきましたので、少し発言させていただきたいと思います。

まず、7ページから12ページのところで、現状と課題として報告のような形で上がっていると思いますが、1ページ目に世界、アジアと来まして、最終ページに福岡市という流れになっていると思います。これはおそらく、13ページから福岡市のことを詳しく書いていくためにこのような流れになっていると思うのですが、大前提として福岡市の構想を考えていき、それが最終的にアジアのトップリーダーにつながっていくという流れならば、福岡市のことを最初に取り上げて、アジア、世界につなげていくという流れのほうがいいのではないかと思います。

前回配付されたこちらの体系一覧表で見ましても、アジアという言葉が、今日進んできました1ページから11ページの間に比べましてかなり減ると思います。福岡市に住んでいる市民の方々ですとか、そういったところを大前提としてお話がこれからも進んでいくということだと思いましたので、そういったことを考えると、ページの流れ的には今のものでも読みやすくいいのかなと思うのですが、大前提としての認識という点では、福岡市のことを重点的に考えていく、問題意識として取り上げていくという認識を、この場で再確認していかなければならないのかなと思いました。

また、それに加えまして、9ページから11ページの間に、日本、九州、福岡都市圏という形で取り上げられていると思いますが、九州、福岡都市圏の項目がかなり少ない印象を受けました。アジアに比べて範囲が狭いという言い方が正しいのかわかりませんが、小さいので取り上げる問題が少ないのかなとは思いますが、福岡市も日本や九州の一部ですし、九州の中心となっていくのであれば、九州都市圏の現状、課題を前提として認識していくのが一番正しいのかなと思いますので、もしここに記載されている以外に現状、課題として確認しておかなければいけない、念頭に置いておかなければいけないようなことがありましたら、追加資料でも構いませんので、そういったものもぜひ上げていただければと思います。

続けてもよろしいでしょうか。

○竹下部会長 どうぞ、お願いします。

○委員 先ほども上がりました22ページの1項目の「市民との共働による行政運営」の欄なのですが、最後に「こうした取り組みには」という1行があると思います。「福岡市を愛し、地域を育てる、情熱と地道な活動が必須であり」という、これは市民に求めていることだと思うのですが、大前提として、今現在、福岡市の何が市民に愛されているのか、福岡市という地域のどのようなところを市民が愛しているのかということを経験としてどのように把握しているのかということがすごく気になりました。

今愛していただいているとか、市民から好評をいただいているようなことは、これからもっと向上させるとともにキープしていくというか、そういう形で進まないといけないと思いますし、また市民がここがもう少し足りないと思っていることが、これから考えていくに当たり一番重要だと思いますので、そういった点をもう少し取り上げていくような形で文章などを書いていただければ、こちらとしても進めやすくなっていくのではないかと思いますので、発言させていただきます。

○竹下部会長 どうもありがとうございます。よろしくお願いします。はい、どうぞお願いします。

○委員 一つ質問なんですけれども、この行政運営の基本姿勢の「持続可能な行財政運営」のポツ印の3番目に、「施設関連投資額の低減や平準化を図りつつ」という文言があるんですけれども、この「低減」というのは要するに、施設関連に投資する額を減らすという意味ですか。

○竹下部会長 お願いします。

○事務局（光山） 福岡市が政令市に移行しまして今年でちょうど40年になります。政令市になるに当たって、区役所をつくったり、各区に一つずつの市民センターをつくったりとか、いわゆる高度成長期に合わせましてかなり大量の施設をつくっています。学校もそうですし、市営住宅もそうです。ちょうど40年ぐらいたちますと、これらの更新時期を迎えてきます。ちょうど次回の財政のところでも少しご説明しようと思っておりましたけれども、それらの施設というのが今後大量に更新時期を迎えます。財政状況が厳しい中で、そういったものをいかに適切に維持、更新していくかが大きな課題であるということを書かせていただいています。

その中で、膨大な施設を維持、更新していくためには、更新していく費用、コストを

できるだけ落としていく、しかもそれを財政負担として平準化していくというところが非常に大事になってくるかと思っております、施設関連投資額の低減とか平準化という表現をさせていただいているところでございます。かなり膨大な施設を維持、更新していく必要があるということが大きな課題でございます。

○竹下部会長 よろしいですか。どうぞ。

○委員 ということであれば、その趣旨が伝わるように表現しないと、これだけではわかりにくいと思うんです。単に投資額を減らすということしか表現されていないと思うんですね。投資をしないんだとか削減するんだとかいう単純なことしかここからは読み取れないので、それがわかるように皆さんに書き示す必要があるのではないかと私は思います。

○事務局（光山） そうですね。ご指摘のとおりで、課題認識としては、前段の「持続可能な行財政運営」の下の総論的な部分で、2行目に「社会資本の大量更新期の到来など」とさらりと書いているだけで、文章としてこれがそれとリンクするようには見えていませんので、そこはご指摘の方向で少し検討したいと思います。

○竹下部会長 お願いします。どうぞ。

○委員 資料の20ページのことについて、一つだけご意見を述べさせていただきたいと思っております。

都市経営の基本的な方向性ということで、真ん中に「生活の質を高める」「都市の成長を図る」という図があって、上のほうにいろいろな項目の柱立てがあると思うんですが、福岡市のこれからのことを考えると、都市の一番の資源というのは、人間というか人材ではないかと私は考えておりました、生活の質を高めるのも都市の成長を図るのも人間のやることなので、市民の質というのが非常に重要ではないかと思っています。

そう考えたときに、上のほうを見ると、いろいろなグローバル人材とか、都市に人を引きつけるということを書いてあって、もう一つ、あとはコミュニティが活性化してとても住みやすいという論法にはなっているんですけども、人を引き寄せた後に、その人たちにどういう状態になってもらいたいのかという考え方が要ると思っています。それには教育とか交流とか人材の育成というのが重要なんですね。入ってきたらいきなりコミュニティに参加できるわけでも担い手になれるわけではなくて、都市になじんでいって、いろいろな交流をして学習をしていって、初めて担い手としてステップアップ

できて、子供もそうですけれども、大人もそういった時代になってきているのではないかと思います。その考え方については、多分、上のほうではないかと思うんですが、人材面の重要性というのを入れていただくのが適切ではないかと思えます。

先ほど来、共働という話も出てきているんですけども、人というのは情報でしか耕せないと私自身は思えます。いろいろな気づきを得るには学習とか交流だと思っておりますので、その考え方を経営の中に——経営というのは人と情報とかお金の配分のことですので、その部分を入れていただければと考えております。

以上です。

○竹下部会長 どうも、貴重な意見をありがとうございます。

この20ページの図はとてもいいんだけども、中身がちょっと薄い感じだね。だから、もうちょっとこのところを表現したほうがいいなという感じですね。どうぞ。

○事務局（光山） 我々のこの原案の段階でも、実際、書き込みが全然足りていないというところなどは内部的にも大分議論しています。この都市経営の基本的方向性というのは一番大事なところだと思います。今後、福岡市が10年間の中でどういうふうに都市を回していくのかというところのポイントになりますので、まさに皆様からいろいろご意見をいただいて、しっかり書き込んでいきたいと思えます。どしどしご意見いただければと思います。

○竹下部会長 では、お願いします。

○委員 私は新聞で子供たち向けのページを担当していて、常日ごろ子供たちにどういうふうに伝えるかということを考えているので、今日の議論をお聞きして、この文面を読みながら、子供たちに対してどう書こうかなと自分なりにイメージしていたんですけども、なかなか書きづらいというのが正直なところなんです。なぜかという、多分、子供たちに対するメッセージが全くないということなんじゃないかと思えます。将来をつくる総合計画という意味では、子供たちにどんな未来を渡したいとか、どんな世の中にしたいというのを今の大人が考えるというのが大前提のはずなんですけれども、そこが伝わってこないなと感じています。

具体的にどうしたらいいのかなというのを考えていたんですけども、例えば先ほどの文化をどうするかという話がありましたが、子供たちが誇りを持てるような自分たちの文化であるとか、そういった文言に変えていくとか、随所に「子供たち」という言葉を入れてもらえれば、将来に向けた計画なんだというのが伝わるかなと思いました。

○竹下部会長 新しい視点ですね。お願いします。

○委員 全体的なということであったので、ちょっと戻りますが、17ページに福岡市の広域的な役割、都市圏の母都市ということが書いてあるんですけども、委員の皆さんのご意見を伺っていて思うのが、福岡市が都市圏と言ってくるわけですね。この議論の中にもよく出てきます。では、福岡市が今、具体的に他都市、周辺都市とどういう関係をつくっているのかということ、もう少し資料の中に書いていただいたほうがよかったのかなと思います。

具体的に言うと、先生もおられますけれども、例えば救急医療に関して言うと、周辺都市からの受け入れであるとか連携を既にとっているとか、福岡市の場合であればこれも病院というものを市単独で運営して、患者さんの半分ぐらいが周辺都市から来ているとか、先ほど言われたように、福岡市に労働人口が周辺都市から流入することで経済の成長があっている。福岡市は人口148万ぐらいですが、おそらく昼間は200万弱ぐらいに増えるんですね。であれば、例えば道路のインフラの部分を福岡市がより負担をしていますよとか、競艇の部分でも、都市圏で開催をしてもらって、そこでいろいろな、予算的な補助じゃないですけども、そういうこともしていますよとか、逆に福岡市は水に関しては周辺都市から協力をいただいていますよとか。北九州の福北導水とかもありますよね。そういうことを少し説明していただけると、都市圏という考え方がなぜあるのか、それがどういうふうに密接に絡んでいるかが明確になると思います。先ほどのネットワークが複雑に絡み合っているということも多分そういうことだろうと思いますし、そういうご説明をもう少しいただくと、皆さんも都市圏という考え方が少しわかりやすくなるのかなと思いました。

それと今度は20ページ、基本的方向性の部分なんですけど、先ほど人材というご意見もありました。まさしくそのとおりだと思います。ただ、その人材の話と、住環境、福岡市というまちの環境とが必ずしもリンクしない部分が往々にしてあるということも、ぜひご理解いただきたいと思います。

例えば国際的な人材の集積ということになると、地域コミュニティからはなかなかリンクできない部分というのが、実際の生活の中では起こることが多々あると思いますし、アジアのリーダー都市ということならば、多文化共生を前提に考えないといけない。先ほどの自治協議会であるとか老人クラブであるとか、それはあくまでも福岡市に定住している、ベースとしては多分、日本人の方の組織でしょうし、NPOという組織になると必ずしもそうではなくて、外国の方も含めていろいろな方の活動もまちの中で起こるでしょうし、そういった部分の考え方を少し整理していただきたいなと思います。

総合計画ですから、ある程度大枠の中でということにはなるんでしょうが、目指すべき目的がごちゃごちゃとなってしまうような気がしています。簡単に言うと、福岡市民というと、まずは福岡市に住んでる人のことだろうと思いますが、ただ変な話、それが市民税を払っている方なのか。例えば、その人たちだけでは都市としての考え方はまとまらないことがあります。観光等のいろいろなことを考えるということであれば、短期宿泊者の方もそうでしょうし、いろいろな方の中でごちゃっとしたことがもやもやとしているように私は感じておりますので、そのあたりのところを方向性としてももう少しわかりやすく出していただけるといいかなと思います。これは意見で結構です。

○竹下部会長 どうもありがとうございます。

それでは、ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

○委員 都市経営の基本的方向性のキャッチフレーズに「人と環境と都市が調和のとれたアジアのリーダー都市」とありますが、これをじっくり見ていると、何かおかしい。要するに、何が調和がとれているのか。

私は実は北九州の出身で、先ほど委員長からも北九州の話が出ましたが、北九州生まれなんですけれども、福岡に住みたいとずっと思っていたんですね。数年間しか住んだことのない福岡にやっぱり住みたいと。どうも感じるのは、この生活の場面と、それからまちが持っている活力がすごく調和がとれているんです。北九州の方がおられたら怒られちゃうんですけれども、北九州の場合はどうも少し暗いというか、調和がうまくとれていなくて、ぎくしゃくした感じが5市合併以降ずっと続いている。どうもお互いの気持ちに通わない。福岡の場合は、生活の面とまちの活力がすごく調和がとれていて、それがリーダー都市にふさわしい。

私は大学にいますので、今日も中国の40近くになろうとする学生が訪れてきたんですけれども、とにかくずっと福岡に住みたいんだと。日本の永住権もとっていて、北京の支局長か何かやっているんですけれども、それでも住まいは全部福岡に置くと。「どうして」と話を聞くと、住みやすいと。中国と比較しても、生活の面もあるし、すごく元気がある。彼が東京よりも福岡だというのは、調和がとれているということもあるようで、膨大な大きさがあるわけでもない。

ここの環境というのは自然を指しているのか、大きな意味での環境を指しているのか、ちょっとよくわからないんですけれども、人の生活とまちの活力が調和している、もしくは自然環境なり歴史的環境なりという生活を取り巻く環境がうまくバランスがとれているという表現にうまくつながればなど、これを見ていて思いました。すごく大きなキャッチフレーズなので。

あともう一点です。また共働のところで、実は共働の文言の中には入っていて、さっきの①の最後のところ、「行政はこれらを下支えするため、市民、企業、NPOなど」となっているんですが、これはさっきの人材との関係もあって、福岡は日本の中でも最も若い層が多い都市ですから、学校や大学といった教育機関がこの共働に入っていないとだめだろうと。あえて外したのか、面倒くさいから入れなかったのかわからないんですけども、ぜひここには教育機関を入れていただきたいと思います。

○竹下部会長 どうも。どうぞお願いします。

○委員 今のご意見の関連で、先ほど副会長もおっしゃった、この20ページの丸の内容の書き込みをもう少ししっかりしてほしいということにも関連するんですけども、私どもの社会を支えている活力のもとになる生活に欠かせないもの、制度主義でいう社会的共通資本と言われる、教育や環境、医療も含んだ社会保障、交通、そういうものを大事にしていく、それが結局は住みやすいまちにつながるわけです。それがあってこそ、その上に経済活動が乗ってくるし、自由な経済的競争もあれば学問の競争もあるということこそをきちんと認識して書き込まれると、もっと明快になるのではないかと思います。

○竹下部会長 どうもありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。お願いします。

○委員 ちょっと戻って恐縮なんですけれども、全体的なことです。

まず3ページの基本計画策定の趣旨の中で、丸の2つ目、そこに「ICT（情報通信技術）の発達」というのがありますよね。わざわざ策定の趣旨でこのICTを強調されていらっしゃるわけなんです。

今回の福岡市の基本計画のキーワードの中にはアジアというのがあるわけなんですけれども、皆様ご承知のように、アジアの中には韓国の江南区のように、住民票、印鑑証明書は自宅のプリンターでとれるというところもあります。家事や仕事を中断してわざわざ交通費を払って役所に行って、発行手数料を払ってもらおうとかいうようなことは、韓国にとっては国民に対する一つの経済的なマイナスなんだと、経済活動をとめること自体がよくないんだという全く逆転の発想で動いていて、そういう韓国の江南区ぐらいのことを想定しているのかなと。先ほど冒頭に小川副会長のほうから、将来予測と将来努力を明確にするという話がありましたけれども、将来予測として、それぐらいまでのICTの発達を前提とした基本計画をつくるのか。

そうすると、この22ページの行政運営の基本姿勢にある「市民との共働運営」、これ

はそのとおりだと思います。自助・共助・公助のバランスのとれた部分で、非常に大事だと思います。ただ、2つ目の「持続可能な行財政運営」とか、また「時代に合った柔軟で果敢にチャレンジする市役所」というのは、韓国の例ばかり言って恐縮なんですけれども、人が来る必要がないから、韓国の区役所とか市役所は小さいんですね。それは極端な例ですけれども、この部分に選択と集中ということできまざま書いてあって、そのバランスというか、将来的な部分でどこまで考えてこの基本姿勢を書いたらいいのかなという。

それともう一つは、「行政運営の仕組みや発想、手法を抜本的に見直す」と書いてありますが、今言ったICTを考えたときに、これは国全体でも議論していかななくてはならないんでしょうけれども、マイ番号制とか、そういった取り組みも前提として考えていくのかとかですね。ここの記述は、今後10年にどれだけの変化が来るのかなと考えたときに、正直言って、全く今までと変わっていないじゃないかというような気がしましてね。

求められるのは、非常に徹底した選択と集中を行って、その部分でうまく捻出できた人材を別の高度なものに、また福祉とかの話がさっき出ましたけれども、より質の高いものにシフトしていく、そういうまちづくりではないかということで、正直言って22ページは何か現状のまま踏襲しているような気がして、将来予測として考えたときに、非常に寂しい気がします。意見です。

○竹下部会長 宿題ですな。どうぞ。

○事務局（光山） 確かにICTの時代に伴う変化は、特に我々としても、この10年間でとても予想ができなかったぐらいの発達というか発展をしているので、今後、どこら辺の将来を見据えて予測可能かどうかというところが非常に大きいところだと思っています。おっしゃるようなところについては、どこまで見据えて書けるか、ご議論いただきたいところであります。

もう一つ、先ほどありましたように、行財政改革の有識者会議のほうでもICTの役割は非常に大きいだろうということが議論の中心になってきておりまして、まさにそちらのほうでも、ICTを改革の中心に置いていくべきではなかろうかという議論があります。そちらでの議論もこちらにフィードバックしていく必要があるのではないかと考えている次第でございます。

○委員 よくわかりました。

今一つ言い漏らしましたけれども、施策の選択と集中ということでは、前も議会の中

でご紹介したことがあるんですけども、韓国というのは施策の選択と集中を市民の皆様には選ばせているんですよ。優先度の高いものから施策を実施していきまして、そういった意味で非常に市民の関心度が高まって、自分たちで自分たちのまちをつくっているんだというイメージがあるんですよ。福岡市も先ほどから市民の自立とか共働とかさまざまありますので、そういったこともぜひ入れていただけたらという。ご紹介でした。

○竹下部会長 どうもありがとうございます。

まだ、ありますか。それでは私が一つあるので、どうぞ先にやってください。

○委員 ありがとうございます。20ページの都市経営の基本的方向性のところで、先ほどグローバル人材とか人材育成みたいな話が出てきたんですが、そこに関するお話です。

「福岡市が住みやすさに磨きをかけて」と書いてあって、実際に外からは住みやすいという評価をいただいています。中の人たち、市民には、市民のマナーが悪い、犯罪が多いという不満があります。そこはコミュニティの活性化というところから出てきているんだと思うんですが、コミュニティというのは人についてくるものです。ここは今からつくり直すということだったので、地域の担い手としてこういう人材をつくるみたいな文言をここに入れていただきたいなと思っています。

○竹下部会長 人材ですね。

どうぞ、お願いします。

○委員 先ほど委員のほうから、都市経営の基本的方向性である「人と環境と都市が調和のとれたアジアのリーダー都市」というキャッチフレーズに根本的な疑問が差し挟まれましたので、この「人と環境と都市の調和」というフレーズを決められた理由というんですかね、そこを説明していただけないと、このフレーズばかりが上滑りする状態は好ましくないと思うんですね。基本的な質問には答えていただいたほうがよろしいかなと私は思います。

○竹下部会長 今日がいいですかね。

○委員 どちらでも構いません。

○事務局（藤本） ちょっと簡単にご説明します。

○竹下部会長 簡単にお願ひしましょう。

○事務局（藤本） 基本的には、これは市長の選挙のときからのキャッチフレーズですので、まず決めたのは市長です。

今、我々がどういう認識をしているかということをご説明しますと、「人と環境と都市が調和のとれた」というのは、「人」の部分が、今都市像として掲げているところで言いますと1番目、人が元気に生き生きとしているというのが「人」。「環境」というのは、環境と共生した形のまちができていますということが「環境」。そして「都市」という言い方にはなっていますが、いわゆる都市活力というのがあって、それが都市像で言うと三つ目と四つ目という形になっていて、こういう、人が元気です、環境と共生した状態になっています、都市活力があります、この3つのバランスがとれているという状態が「人と環境と都市の調和のとれたまち」です。

「アジアのリーダー都市」という表現については、そういった調和のとれたまちであることによって、アジアに対して貢献をしたりとか、アジア、九州を牽引していく役割を担うということで、一応、「人と環境と都市が調和のとれたアジアのリーダー都市」というフレーズで、今のところは我々としても認識しているし、市長も使っているところでございます。

○竹下部会長 これについては、まだ戦略的なことも含めて、もう少し論理的に詰める必要があるのではないかと思いますので、また次回議論しましょう。

それから、今日は時間が来ましたが、21ページの空間構成目標、それから区別目標というところ等々はほとんどご意見をいただけなかったもので、これについても次回の宿題にさせていただきます。

それでは、時間がだんだん迫ってまいりましたので、これで締めたいと思っているんですが、最後にご発言が何かありますか。はい、手短かにお願いします。

○委員 20ページの（2）の意味がよくわからないんです。「これまで交通、水、福祉、環境などの共通の課題と一緒に取り組んできましたが」、その後なんですが、「今後も一体となって九州そして日本全体の発展を牽引する経済成長のエンジンとしての役割を目指します」と書かれているんですね。こういう交通だとか水だとか福祉、環境というのは、どちらかというとも住みやすさにつながるものではないかと思うんですが、なぜこれが日本全体の発展を牽引する成長エンジンになるのか、ちょっと違和感を感じるんですけども、そのあたりのご説明をお願いいたします。

○事務局（藤本） 今ご質問のところについては、つながっているというよりは、今まで
はこういう形で、主に経済成長の分野ではなくて、いわゆる暮らしの質ですとか渋滞の
緩和ですとか、そういったところについて特にやってきました。そういった形で今は一
体化しています。

「今後も」となっておりますが、一体となるという状態は今後もなんですけれども、
その一体となった形で、日本全体の経済成長という単位について、今、民間が中心にな
って産学官で福岡地域戦略推進協議会という団体ができていますけれども、それは福岡
都市圏という範囲で考えようということになっています。経済の範囲が福岡市だけでは
なくて都市圏という範囲で動いているということ考えられていますので、そこで経済
を牽引していく単位としては福岡都市圏という範囲ではないかということで、このよう
な表現になっているところです。

○委員 おっしゃることはわかりましたけれども、住みやすさのところでもこういった項
目というのは重要だと思います。特に交通に関しては、多くの都市は今、もう公共交通
が成り立たないような状況で、福岡はぎりぎり成り立つサイズなんですね。こういった
強みも福岡の住みやすさの一つの要因だと思いますので、そういった視点もどこかに入
っていただければいいのではないかと思います。

以上です。

○竹下部会長 一言でお願いします。

○委員 空間構成目標に意見が出なかったということなんですが、このサンプルのままで
まだ示されていませんので意見の出しようがなかったということです。

○竹下部会長 そうですね。

5 閉会

○竹下部会長 今日は3時スタートでやってまいりましたが、たっぷり2時間半、さまざま
な意見をいただきました。今日は集約して整理するというのではなくて、意見をい
ただくということで、これは議事録に残して後々ご活用いただきたいと思います。ただ、
かなり貴重な意見が出ていたのではないかと思いますので、事務局、大変ご苦労さまで
すけれども、整理、まとめ等をよろしくお願いします。

ちょうどまた1週間後ぐらいに、次の各論をまたご議論いただきますので、また活発
な意見交換をお願いしたいと思います。

それでは、どうも本日はご苦労さまでした。これで終了したいと思います。

閉 会